

令和6年度の発掘調査で新たに発見された恐竜化石4点について

(1) 概要

徳島県立博物館では、令和6年10月～12月に福井県立恐竜博物館や福井県立大学恐竜学研究所、県内の化石愛好家、阿波勝浦井戸端塾などの協力を得て、徳島県勝浦町の恐竜化石含有層（ボーンベッド）の発掘調査を実施した結果、382点の脊椎動物化石を発見し、うち4点は、恐竜化石であることが判明した。

(2) 発見された恐竜化石

1. 竜脚類ティタノサウルス形類の歯化石（2点）

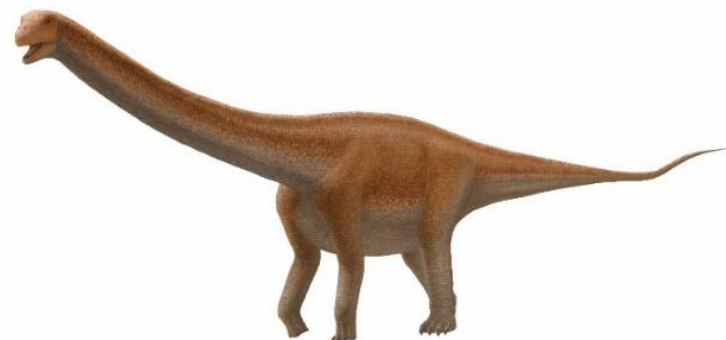
- ① 県内で12点目、13点目の発見となる竜脚類の歯化石。
- ② 歯の特徴から、これまでに発見された竜脚類の歯と同様、ティタノサウルス形類の歯と考えられる。
- ③ うち1点は歯の根元から先端までが保存されている。



長さ 33.5 mm、幅 10.5 mm
(令和6年11月24日採集)



長さ 12 mm、幅 8 mm（先端の部分は欠損）
(令和6年10月30日採集)



ティタノサウルス形類の生体復元画（画：山本 匠）

2. 鳥脚類イグアノドン類の歯化石（1点）

- ① イグアノドン類の歯としては、県内で3点目の発見。
- ② 一次稜線などの特徴から、上顎の歯であることがわかる。
- ③ 先端は摩耗しているが欠損が少なく、これまで発見されたイグアノドン類の歯の中で最も大きく、保存状態がよい。

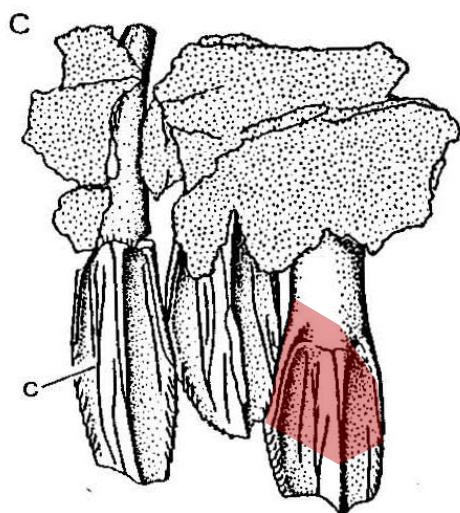
（※過去に発見された中でもっとも大きいイグアノドン類の歯化石は、平成6年に発見された標本：長さ14.6 mm、幅11.6 mm）



長さ 23 mm、幅 13 mm
(令和6年10月23日採集)



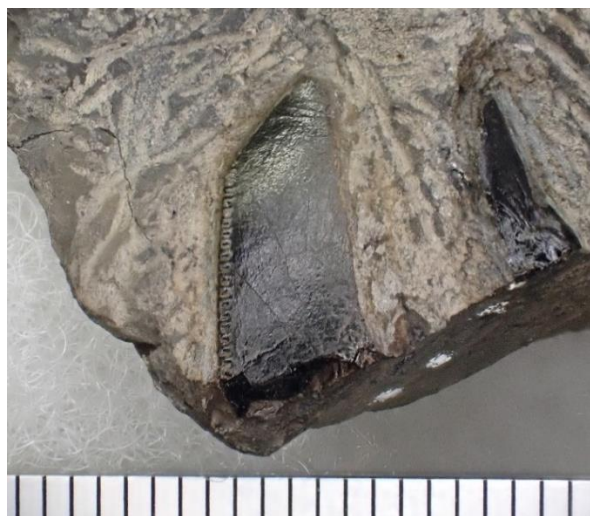
イグアノドン類の生体復元画（画：山本 匠）



参考：マンテリサウルス（イグアノドン類）の上顎歯（Norman, 1986）

3. 獣脚類の歯化石（1点）

- ① 県内で6点目の発見となる獣脚類の歯化石。
- ② 歯の縁部分のみが残された断片だが、獣脚類に特有の鋸歯構造が見られる。



長さ 11 mm、幅 5.5 mm（歯の縁部分のみ保存）
（令和6年11月13日採集）



参考：獣脚類（アロサウルス類）の歯
（Bakkar, 1998）



獣脚類の生体復元画（画：山本 匠）

（3） 一般公開

日時 令和7年3月13日（木）から令和7年8月31日（日）まで
場所 徳島県立博物館 常設展 徳島恐竜コレクションコーナー